



蓬萊町だより

第二十四号
日部町蓬萊
四月二十日
成行年
平發集者

蓬萊町界限(その二十)

書生の宿・下宿屋(Ⅲ)の2

林 順 信

前号よりのつゞき

下宿人が朝起きて洗面をして部屋に戻る午前八時頃が、朝食の時間で、女中はお膳にのせた朝食を、受け持ちの客間まで運んだ。前の夜にハシゴをして朝寝坊をきめ込んでふとんをかぶっている学生の部屋にも、女中はお膳をそつとしのばせてくれる。

(1) 朝食のメニューは、御飯と向こうづけ一品と、海苔と玉子にみそ汁にお新香ときまっていた。夕食となると魚か、とんかつ、それにシチューやカレーと果物ということもあれば、オムレツなんていうものもあった。夕食は、なぜか畳敷きの大部屋に行つて食べることが多く、朝出かけるときに、「帰りが遅いから要らない」とか、「夜八時すぎになりますから」とか帳場にこ

つては、帳場に、白丸と赤丸の在室か不在かのボタンがついていて、部屋に帰つて来てからボタンを押すと、秋から冬なら、女中は炭を入れた手さげのついた箱と、火だねとを持って、学生の部屋に行つて火鉢に火を起こしてくれる。女中には昼間の学生の出かけたあとの時間は、各客間の掃除と、洗面所、便所、廊下のふき掃除に追われる。戦前は我々小中学生もそうだったが、女中の手はヒビ、アカギレ、シモヤケで赤紫にはれ上がった人が多く、一仕事すんで、洗面器にぬるま湯を入れて、手を温めていやす姿がどこの下宿屋にもあった。

学生の洗濯物は下着は別として、ほかは洗濯屋に出していた、というよりも、出入りのランドリーの御用聞きが、玄関から直接学生の部屋に入つて処理していたから、当時はのんびりしていたものだった。

学生のところ親が来たり、友だちが来ると、外から店屋ものを頼んでもらうことは出来るが、この場合は、大低月末に清算される。しかし、下宿屋出入りの、御用達のすし屋やそば屋に限られて許されるのであり、多少のリベートが含まれていた様である。下宿屋というのはあくまで、細かく細かく計算しないと行つても大変な商売だったらしい。

女中といつても、下宿屋の労働のあけくれの中にも、年に一度は三日間ほどのお暇が出た。

旅費として五円ぐらい(現在の一万五、六千円)と郷里へのお土産が出る。下宿屋によつては、お菜の作り方や針仕事を覚えさせてくれ、反物の一つも拵えてくれるところもあって、良家の女中ほどではないが、花嫁修業の一端を下宿屋が担っている一面もあった。

「くにの親が病気になったものですから」とか、「姉のお産の手伝いに行つてきたいんですが」と、口実を作つては、途中で止めてくりに帰るといふよりも、自分に合わない下宿屋を止めて他に転ずる女中も数々いた。

◆想い出すことも……

下宿屋の中には、明治時代に親がお世話になり、その子が二代目としてお世話になるということもあった。父親は官吏だとか医者だとかで成功者となつているから、錦を着て書生の宿に息子を連れて帰つて来るともある。そんなときは、台湾から食べ切れない程のパナナをお土産として送つて来たり、東北からりんごが何箱も届くことがある。記憶の中にある蓬萊町の第八初音館での想い出の人々のことが今でもよみがえってくる。

中にはさる大きな神社の御曹子のOさんで、七年も入試に落ちて、学校を出たときは三十五近くにもなつていたという人もいて、そういう人こそが世間学の優等生で、開業して大病院の

院長として大いにはやったりするのだから、書生の頃だけでは人はわからない。

中には、熊本出身の人で、小学校を五年（三年生から飛び級という制度があった大正時代に、四年をやらずに五年生になり）、旧制中学五年のところを四年修了で五高に入り、早生まれないので、人より三歳も若くして帝大を出て、さる有名な外交官になった人もいた。一見風采が上がらないが、秀才の誉れが書生時代から高かったNさん。また、台湾の高砂族出身の秀才で、旧制台北高等学校から帝大医学部に入り、海軍の軍医になった人で、夏休みに台湾の蝶々を三百頭もつかまえて、少年時代の私にくれたTさんのことが懐しく想い出される。タイワンホリシヤだのツマベニチョウだの、コノハチョウだの、オオゴマダラチョウだの、昆虫好きには垂涎の的の葉々を三角紙に包んで私に台湾から持って来てくれたことがあった。

こんなこともあった、さる地方出のNさん、高校入試で上京したある年の春のこと、京都の三高はパスした。藤原銀次郎が新設して人気沸騰、倍率五十倍だった藤原工大（現在の慶応工学部）もパスした。旅順工大の難関も突破した。

残るはW大学の理工科を受けたが、発表の日に自分の名前が出ていない。自信満々のNさん、承知できないので試験の事務室で調べて貰ったら、これがなんと、合格していたのに係官の書

き落とすとわかったという話。

当時は、合格の発表は成績順に発表になった。このNさんその学校へは3番で合格していたというから、少年時代の私も舌をまいた。

そうかと思うと、対馬の旧城主のS氏の御曹子で、私に東大前のレストラン鉢の木で洋食をご馳走してくれた人など、近所の少年である私は、案外と書生さんとも付き合いがあったものよと、今になって自分でも驚くのである。

夏休みには、下宿の書生が故郷に帰省するのでも考えられないが、空いている部屋の幾つかを含めて、旧制高校のインターハイの選手や応援団がやって来る。部屋代は夏休み期間中は半額というのが、本郷界隈の下宿屋のしきたりだった。ひさしの大きな麦わら帽には、黒いベルトに二本の白線、校章までついたのをかぶり、羽織に袴の高校生が朴葉の高下駄で蓬萊町をゆっさゆっさと歩き廻るのも夏休みの風景の一つだった。

「松江高等学校水泳部御宿」とか「第二高等学校野球部御逗留」とかの大きな立看板が玄関わきに下げられた。

しかし、こうした平和な蓬萊町にも、僅か三・四年にして戦争という魔の手が襲ってこようと全く思いもよらぬことであった。

須藤正四郎氏の急逝を悼んで

町会長 高島 正義

須藤さん、あなたは当町会にお生れになった方ではありませんでしたが、当町会のために特に晩年は地区役員として亦、会計監査役としてご尽力いただき有難うございました。

聞くところに依りますと、あなたは若くして大阪に修業に出られ、戦後まだ焼跡に帰る人もいなかた昭和二十二・三年頃に当地に店舗をかまえられ、雑貨御商としての歩を着実に進展されて来られました。つい先頃は本社前に第二須藤ビルを建設され社業益々隆盛に向はれております。言うまでもなくあなたのたゆまざる努力と天分とがその基となったのですが、私共も町会でのふれ合いの中で温厚にして実行力のあるあなたの人格に接して、常々、敬服と信頼の度を深めてまいりました。この度の突然の悲報はご家族にとつては勿論、私共ともに町会の『和』をめざす役員にとつて、晴天の霹靂であり痛惜これにまざるものありません。町会一同を代表して心からご冥福をお祈りいたします。

合掌



蓬萊句壇

平成二年二月二十一日

石をもて逐はるる夢や春の風邪 沛雨亭
春昼や煮豆屋の皿湯気あげて ”
申告期そろばんはじく丸き瓜 帰蝶
雨雲におぼろおぼろの月高し ”
毛糸編む手元ながめて旅話 すえ
寒に入る一針ごとの衣の音 ”
春一番議員候補の声の波 千重
積る雪はね返しおる雪柳 ”
早朝のグートポールも四温かな 在一
図板引くいろはにはほへと二月尻 ”
薄氷の質料変る疾く変る 向雪
沙風の湿る炎や雁供養 ”
笹鳴の近づく気配吉野窓 連木
一の午乙女稲荷に願はどき ”

町会活動の概要

平成元年12月から平成二年3月中旬まで

総務部

12月18/29日 歳末夜警実施
12月21日 門松絵びら、会員宅へ配布
1月19日 地下鉄七号線の工事に伴う協定につ
いて協議会が、開催され町会から役
員が出席

交通部

2月26日 駒込交通安全協会理事會

議題 春の交通安全運動の推進について

4月6/15日まで「春の交通安全運動」が行
われます。

防犯部

当町内では盗難などは無く、平穩無事な
町と思っておりますが、駒込警察署からの防
犯回覧によりますと何と向丘二丁目地区がオ
トバイ、自転車の盗難多発地帯と言うことで防
止対策地区に指定されております。

町としてはあまり有難くない指定なのですが、
身近にこのような問題が起きていることを留
意され、施錠等十分な盗難防止策を施して、か
かる災難に合わないよう各自が注意しまし
ょう。

防火防災部

1月14日 本郷消防団、平成2年始式

この行事は本郷地区に在りされ、自治活動
として組織される消防団において、自分のお
仕事の傍らボランティアとして地域の消防活動
に従事されている二〇〇名の団員の方々の始
式です。式辞において団長は、地域の防災に
対する信頼と負託に十分応えるべく団員が一

致団結して頑張っていくという力強い抱負を
述べられました。が、仕事の傍らボランティアと
して活躍される団員皆さんの雄姿を拝見し深
い感銘を受けました。

2月14日 本郷防火協会、理事会、本郷消防署

会議室に於いて

議題 「春の火災予防運動」の運動推進につ
いて

※本郷消防署管内において平成元年中に発生
した火災は四〇件でした。この火災発生原
因のワースト5は、放火16件・コンロ7件・
たばこ5件・器具過熱2件・その他2件・
驚くことに放火が火災原因の第一位です、
放火ばかりは幾ら各自で火災防止に努めて
も防ぎようがないですね、でも放火は屋外
に燃えやすい物を置かないようにすること
で、ある程度防げるのではないのでしょうか、
家の廻りに放火魔に狙われるゴミなど燃え
やすい物は置かないようにしましょう。

文化部

成人式をお迎えの皆さんおめでとうございま
す。

当町会会員のご家庭で本年成人式をお迎えに
なられた方々は次頁のとおりです。

当町会よりお祝いに記念品をお贈りさせて戴
きました。

記

堀江真木子様、鈴木 早苗様、内田 朝子様、川瀬りえ子様、岩本 雅樹様、山中雄一郎様、北沢 紀子様、小山 祐子様、小池 信之様、倉田 泰志様、稲田 裕子様、升沢ゆかり様、平林 秀茂様、田中 和裕様

◎小学校への入学おめでとうございます。

当町会会員のご家庭で本年度、入学されるお子様は左記のとおりです。

21世紀を雄々しく担う若人に大きく育って下さる様、願っております。当町会より心ばかりの記念品をお贈りさせて頂きました。

記

関 紘美様、秋山 健太様、久貝 正士様、塩田 文隆様、西田 吉人様、小林 剛様、菅野 江莉様、

婦 人 部

歳末助け合い募金ご協力ありがとうございました。

一金 一九〇、三三八円

年末には共同募金に続いて歳末助け合い募金と短期間に二回もございますが、いつもながら町内皆様の温かいご芳志によりまして右記のとおり極めて多額の金円が集まりました事をご報告申し上げます。

青 年 部

12月18/29日 歳末町内巡回夜警、実施

夜警につきましては、青年部主体に町会役員の協賛を得て延べ12日間、青年部員が連日参加し、町内の防犯・防火に重点をおいて巡回夜警を実施致しました。

幸いにして当町内では一件の火災も盗難も無く新年を迎える事ができました、これも一重会員皆様のご支援の賜物と深く感謝申し上げます。2月25日 恒例餅つき大会、開催、真浄寺前

道路に於いて

本年はあいにくの曇り空、今にも降りだしそうな空模様にも拘わらず一〇〇名を超える大勢の方々のご参加を戴き真に有難うございました。

小さなお子さんから大人までみんなでたくさん餅をつきあげ、ちょっと遅い正月気分を味わって戴きました、遊び事のたくさんある今の世の中ですが、昔の風情を思い出している餅つきで、ひと味違う楽しさを思い出して戴けたら幸いです。

短い時間の催しでしたが、婦人部をはじめ皆様のご支援により無事終演できました、厚く御礼申し上げます。

計 報

当町会にお住まいの方で、昨年12月から本年3月中旬までの間に逝去された方々のお名前は左記のとおりでございます。

謹んでお悔やみを申し上げ、ご冥福をお祈り致しております。

蘭田 幸代様、須藤正四郎様

(当町会役員・監査)

編 集 部

今年は今明けから例年なく暖かな気候が続いた為か草木の開花が一段と早いように感じられます、桜の花の見ごろもこのお便りのお手元に届く頃にはもう葉桜になっている事で、季節の移り変わりの早いのに驚かされます。

町会事業につきましては日ごろより会員皆様の深いご理解とご支援を戴き、つつがなく町会活動を推進いたしております。

四月から平成二年度の新事業期に入る訳でございますが、本年度も旧倍のご支援、ご協力を賜ります様お願い申し上げます。

編集委員

小林音吉、竹中一馬、高橋一郎
猪熊良晃、池田 暉